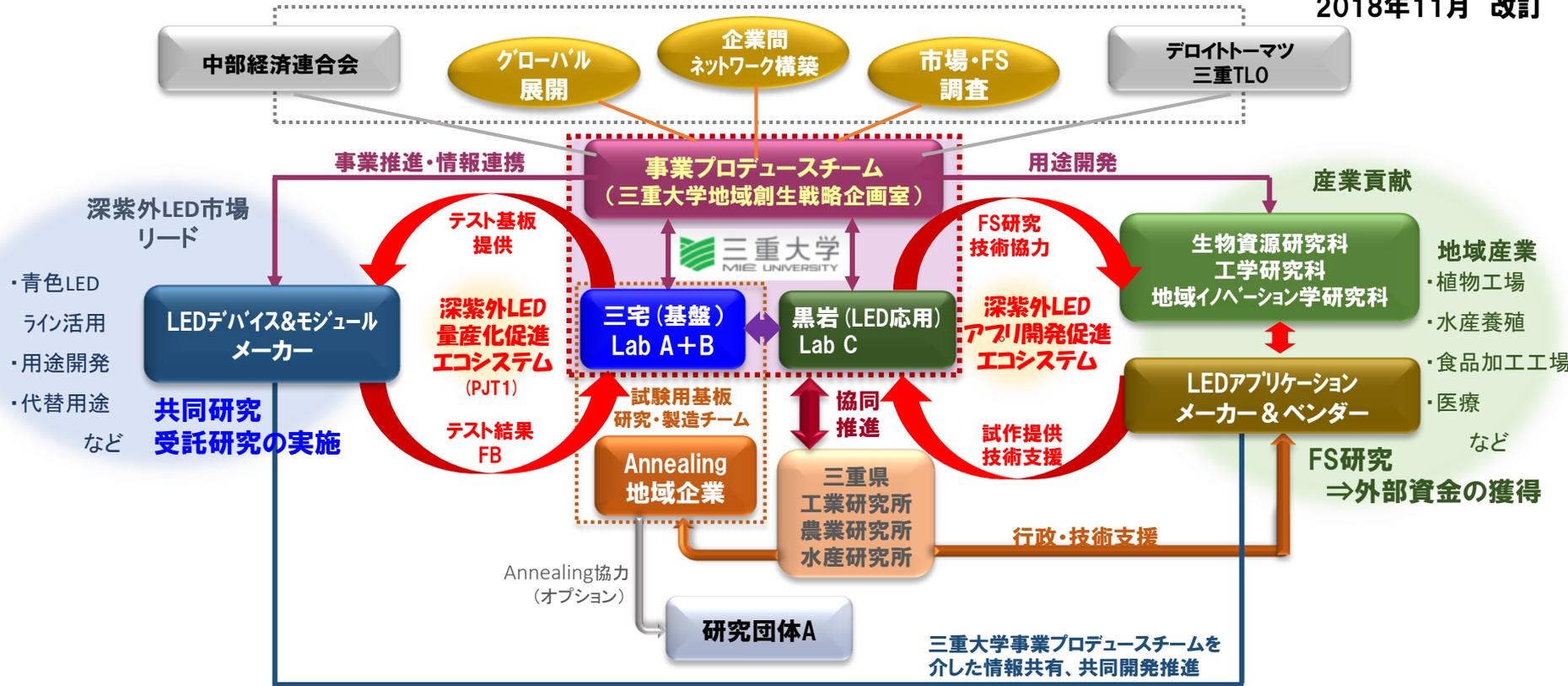


深紫外LED量産化・アプリ開発促進事業枠組み(二つの循環サイクル)

2018年11月 改訂

事業プロデュースチームが中心となり、ステークホルダーが下図のように連携し、「深紫外LED量産化推進」および、「深紫外LEDアプリ開発促進」という2つのエコシステムを構築する。そのネットワーク強化および、市場・FS調査等による戦略策定支援には、一般社団法人中部経済連合会とデロイトトーマツ、株式会社三重ティーエルオーが協力する。



事業推進
各協力者
役割
(申請者)

三重大学

事業プロデュースチーム・本事業の司令塔

ベンチャー企業経営経験のある社会連携担当副学長を筆頭に、複数のコンサルティングおよび企業経営経験者、工学・医学・生物資源学系博士、知財専門家などで組織し、事業全体を推進。

三宅研究室・研究主体

試験基板の研究、製造指導を実施。

地域創生戦略企画室・アプリケーション開発の研究支援

学内「卓越型リサーチセンター」のメンバーにて組成。本事業で想定しているアプリケーション分野の研究者が、それぞれ地域企業と共同開発を検討。

三重県庁
他

三重県、工業・農業・水産研究所・共同申請者

県庁各々が行政的支援、各研究所が技術支援を中心に、本プロジェクトを側面支援。

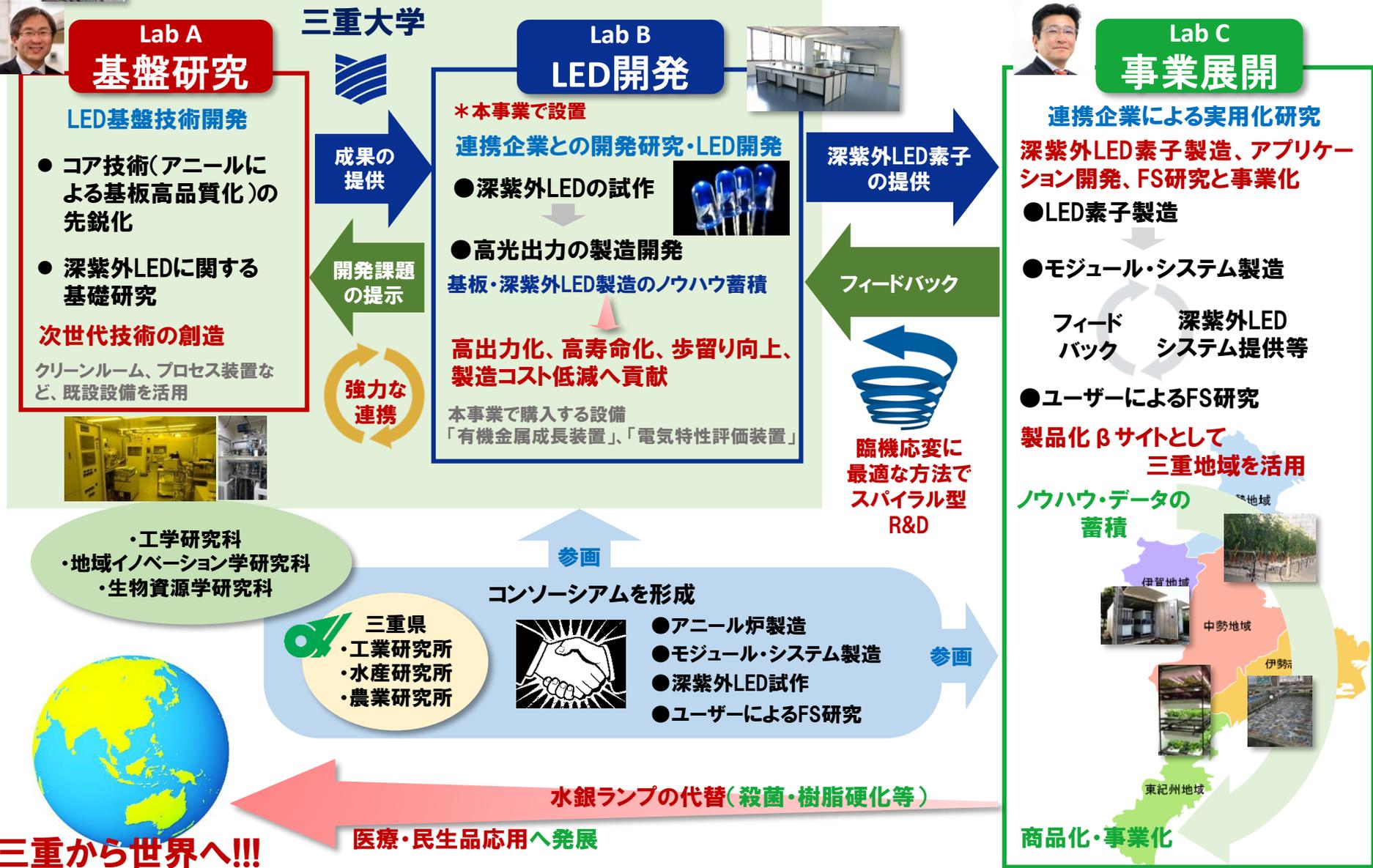
コンサルティングファーム・市場およびFS調査、企業コーディネート調査・分析のプロフェッショナルとして本事業に参画。戦略立案・グローバルマーケティング担当と、ローカル(地域産業振興)と別けて発注することも検討。

Annealing地域企業・試験用基板製造協力

試験基板提供スピード向上のため協力を仰ぐとともに、大手LEDメーカーが発注に合理性を感じるレベルの企業としても育成。

プロジェクトを遂行する「スパイラル型R&D体制」と「アクセラレーター方式」

研究成果の顕在化促進を実現するために、基礎研究を行う「Lab A(基盤研究)」、開発研究を行う「Lab B(LED開発(三重大学内に設置))」、連携企業での実用化研究を行う「Lab C(製品化βサイト)」を同時に立ち上げ、連動させる「スパイラル型R&D体制」を構築する。この挑戦は、臨機応変に最大速度で地域イノベーション・エコシステムを遂行するためのモデル(アクセラレーター方式)になると考えている。



事業プロデュースチーム メンバー紹介



プロデューサー
三重大学 副学長 (社会連携担当)
地域創生戦略企画室 プロジェクト企画部門長
教授 西村 訓弘

大学卒業後、国内大手企業および米国企業の研究員を経て、国立大学発ベンチャーの第1号である(株)ジェネティックラボの立ち上げから経営までを経験。研究開発、マーケティング、起業、企業経営まで幅広い知見と経験を有する。その後、三重大学の教授、副学長(社会連携担当)に就任し、現在、三重県経営戦略会議のメンバーや自治体のアドバイザー、企業の顧問等も務める。大学における産学官連携活動、自治体における施策や事業の企画立案、実行に加え企業活動支援にも多くの実績を有する。海外企業での経験を基に、地域産業の海外展開支援についても豊富なノウハウを有する。以上より、リーダーシップ、アントレプレナーシップ、事業計画、資本政策、マーケティング、知的財産戦略、技術営業等に対して、グローバルに十分な資質・能力を有している。



副プロデューサー (Lab C 統括)
三重大学 地域創生戦略企画室
プロジェクト企画副部門長
黒岩 健一

日本ユニシス(株)ビジネス・イノベーション・オフィスのマネージャー、(株)環境経営戦略総研(現: (株)アイ・グリッド・ソリューションズ)イノベーション部門管掌取締役を経て、平成23年に三重大学へ入職。日本ユニシスでは、日本スポーツ振興センターの「サッカー<じ> toto」事業再構築の中核メンバーとして、toto&BIGの商品企画・販売拡大等に尽力し、事業再生を経験。環境経営戦略総研では、省エネ運用改善コンサルティングサービスの商品企画等をリードし、約5,000店舗に省エネソリューションを導入。また、当時のパナソニック電工(株)と同社の資本提携において、締結を中心的に推進した。三重大学入職後は、スマートキャンパス事業(省エネ大賞 経済産業大臣賞受賞)、ライフイノベーション特区事業等を担当後、平成27年より地域戦略センター(現: 地域創生戦略企画室)に配属され、地域活性化事業等に従事。これらの経験から、事業企画及びプロジェクトマネジメントを得意としている。



中心研究者 (Lab A, Lab B 統括)
三重大学大学院 地域イノベーション学研究科長
教授 三宅 秀人

研究分野は、半導体工学、結晶成長、オプトエレクトロニクス。戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)の日本-EUとの共同研究“Innovative Reliable Nitride based Power Devices and Applications”で日本の代表を務める。JSTの同プログラム日本-中国共同研究“Development of Nitride Semiconductor-based High Power Ultraviolet Laser Diodes for Hazardous Substances Decomposition Systems”(代表: 名古屋大学 天野教授)については分担者として研究を推進。加えて、JSTの戦略的創造研究推進事業(CREST)研究領域「新たな光機能や光物性の発現・利活用を基軸とする次世代フォトニクスの基盤技術」については「深紫外領域半導体レーザの実現と超高濃度不純物・分極半導体の研究」(代表: 名城大学 岩谷准教授)が採択され、名城大学と三重大学で連携して研究を推進している。



コア技術・地域企業マッチング マネージャー
三重大学 地域イノベーション学研究科 准教授
(兼)地域創生戦略企画室 プロジェクト推進副部門長
加藤 貴也

三重大学大学院工学研究科博士後期課程を修了し、博士(工学)学位を取得。2005年から現在まで三重大学において産学官金連携および地域連携の推進等を担当し、地域内の産業界のみならず市町に幅広いネットワークを有している。(株)三重ティーエルオーとの連携により学内研究者の技術シーズをとりまとめ、技術移転にも携わる。また、日本ビジネスインキュベーション協会認定のインキュベーションマネージャーとして、三重大学地域イノベーション推進機構キャンパス・インキュベータの運営およびベンチャー企業支援等を行い、起業をはじめ事業展開等の支援実績を有する。

事業プロデュースチーム メンバー紹介



知財・リスクマネジメント
マネージャー
三重大学 知的財産統括室
准教授 八神 寿徳

2007年大学院博士後期課程修了後、同年新エネルギー・産業技術総合開発機構の産業技術養成技術者(NEDOフェロー)として、三重大学にて産学官連携および知財、技術移転活動に従事。2010年からは三重大学知的財産統括室助教として、知財、技術移転、研究、教育活動に従事し現在に至る。知財、技術移転活動は、分野に捉われず医学・バイオ・工学と幅広く経験があり、研究成果の適切な保護方法の考案、国内外への特許等の出願・中間処理対応、国内外機関との契約交渉、さらに利益相反やリスクマネジメントについても知識・経験が豊富である。知財戦略の立案や戦略に応じた契約作成・交渉を得意としている。

学内シーズマッチング
三重大学 地域創生戦略企画室
プロジェクト推進部門
URA・助教 アヴシヤル 恵利子

2012年に三重大学にて博士(学術)学位を取得後、小型魚類を用いた高付加価値物質の生産を目指した実用化研究に従事。産学官連携の研究開発の経験を活かし、地域創生戦略企画室では企業・団体と大学研究シーズのマッチングに従事している。



有限責任監査法人トーマツ
ディレクター
日本評価学会認定評価士
山口 匡

温室効果ガス排出量算定・報告・検証制度、関連する温暖化対策制度の国際動向に詳しい。試行排出量取引スキーム、東京都排出量取引制度等のガイドライン策定にも従事。環境省「先進対策の効率的実施によるCO2排出量大幅削減事業設備補助事業(ASSET事業)」査読(品質管理)チーム統括(2012-2017)、環境省「L2-Tech審査・認証検討委員会」委員(2015-2017)を歴任。



有限責任監査法人トーマツ
シニアマネジャー
堀江 常稔

大手電力会社を経て、日本学術振興会特別研究員(経営学)、外資系コンサルティングファームにおいて、資源・エネルギーに関する海外市場調査、本邦企業の海外進出支援業務に従事。また公的機関のマネジメントコンサルティングに多数従事。トーマツ入所後は官公庁・民間企業への市場調査・コンサルティング業務に従事。



有限責任監査法人トーマツ
スタッフ
鳥山 康弘

広域地方公共団体における水道事業部門を経てトーマツに入所。環境・エネルギー、電子デバイス応用領域の調査・分析を得意としている。トーマツ入所後は、官公庁向けの市場・技術調査や地方創生に係る政策立案支援業務に従事。当プロジェクトでは、出口戦略等の事業化にむけた調査・分析に従事している。